



No. 37

平成28年12月19日
発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。



やる気スイッチ、ってあるの？

多治見市立池田小学校 校長 小嶋 泉

「知るは楽しみなりと申しまして・・・」鈴木健二アナウンサーの名調子から始まるNHKクイズ面白ゼミナールという番組が30年以前にあった。(昔々の話ですみません。)現代では、多くの人知らないことを知っていることを「ハナタカ」などと言うようだ。知るとは学ぶことである。「学ぶことが好きな子」になってほしいと思う。変化が大きく未来の予測のつかない現代だからこそ、将来にわたって自ら学ぶことを楽しみながら生きていく人になってほしい。

私は読書好きな方であった。本を読むことの楽しさから、さらに新しい情報を得ることの楽しさを知った。これは個人的な営みであった。授業ではこんな思い出がある。

理科の電気の学習だったと思う。繰り返し先生は説明してくださるのだが、どうしてもわからなくてほとんど困ったことがある。そのとき近くの友達が説明してくれて「わかった」ことがある。同じようなことが、算数の面積の学習でもあった。先生に繰り返し説明していただいてもわからないことが悲しくて、ひどくつらい思いをした。しかし、友達の一言二言ですつと分かった時には本当に嬉しかった。

鉄棒の蹴上がりは、多くの仲間ができるようになる中で自分もできるようになりたいと思って練習したのだが、なかなかできなかった。できるようになった友達が、蹴る方向や手の返しなどを教えてくれて、そのアドバイスのとおりにしようと努力した。

1～2週間かかってやっと蹴上がりができるようになったと記憶している。このとき友達のアドバイスは本当に嬉しかった。

「わかった、できた」という喜びはとても大きい。その喜びをすべての児童生徒が味わうことができるように、教師と子ども、そして、仲間とともに進んでいくことができるようになれば、ともに高まり合う授業になっていくのではないかな。

しかし、それだけで学習が好きになるということではないと思う。学習の楽しさや面白さは、わかることやできるようになったことだけではない。わからないことをわかるようになるろうと、仲間に尋ねたり辞書や辞典で調べたりするなどの努力すること、できないことをできるようになるろうと繰り返し練習することの中にもあると思う。

例えば、宇宙のことや天体のことなど、よくわからないことだが、心躍らせるような魅力がある。動物や恐竜などの図鑑を夢中になって読んでいる子どもは多い。難しい問題にクイズを解くような感覚で楽しくチャレンジしている子どもの姿を算数の時間によく見かける。手の豆がつぶれるまで鉄棒につかまって逆上がりの練習をする子どももいる。

それは、もっと知りたい、もっとうまくなりたい、という知的好奇心や向上心なのだと思う。こういう思いを抱かせる私たちの授業や日々の営みが「やる気スイッチ」なのだと思う。



2016 夏休み得意セミナー

・教師塾セミナーから

夏休み得意セミナーのひとつに「親子で体験野焼き教室」があります。このセミナーは、「つくる→焼く→完成」の過程のすべてを親子で体験する、焼き物のまち多治見市ならではの講座です。



自分の手で作り上げた世界でひとつの作品を野焼き窯から取り出したときの参加者の笑顔は本当にステキでした。



参加された保護者の感想を紹介します。

子どもにとっても親にとっても初めての体験でした。こういった機会はまずないので体験できたことが人生を豊かにしてくれると思いました。また、廃棄物も一切出さないと聞いたときは驚きました。環境にも優しい野焼き教室は、これからもたくさんの方に体験してもらおうべきと思うくらい良い体験をさせていただきました。

今年の夏休み得意セミナーは、講座数17、申込み総数1409名、受講者数497名、講師数のべ67名で実施しました。申込み数は、年々増加傾向にあります。今後もこのセミナーを継続することで、子どもたちが自分の興味や関心のあることを体験したり、得意なことを伸ばしたりする一助になるよう願っています。

今年度も教師塾セミナーを開催しました。

できるだけ、幼稚園、小学校、中学校の教員のニーズに応じた講座を開催するように努めています。新しく開催した講座に「新聞って、おもしろいね！」(総合的な学習)があります。



新聞を見る視点について、実践を交えた講義でわかりやすく、学校で活用する方法がよくわかりとても参考になりました。

また、「iPadを使って、一味違った授業にしよう！」という新講座でも、授業での効果的な活用方法について研修することができました。

教師塾セミナー全体では、22名の方に講師を依頼し、15の講座を開設しました。そして、受講者総数は230名でした。受講後のアンケート結果では、ほとんどの方から「大変よかった」「よかった」という回答が得られています。こうした結果は、講師を引き受けていただいた先生方の見識と綿密な事前の準備のおかげです。

今後、教師塾セミナーへの参加方法などについて、夏休み中に実施されるすべての研修会を踏まえながら検討したいと考えます。

土曜学習「わがまち多治見大好き講座」

9月は、多くの申込者があった6月の講座「美濃焼名人になろう」を再開しました。昨年から数えると4回目となりましたが、多くの申込があり、その中から36人の子どもたちが、美濃焼を学びました。

会場は、多治見市美濃焼ミュージアムと多治見市陶磁器意匠研究所の二ヶ所。それぞれの職員の方々に先生になっていただき、見学したり、作陶をしたりしました。人間国宝の手による器でお茶をいただいた子や初めてろくろで作陶をした子もいます。今回も普段は見られない施設も見せてもらいました。多治見ならではの体験ができたと思います。



10月は、感謝と挑戦のTYK体育館でのスポーツ体験「チャレンジスポーツ」でした。スポーツ振興に尽力されている多治見市の連盟・協会の方々にご協力をいただき、84名の参加者が初めての競技やあまりしたことのない競技に挑戦しました。



今回、指導してもらったスポーツは、ソフトテニス、陸上競技、卓球、バドミントンの4競技です。参加者は、この中から希望する2競技にチャレンジしました。



保護者からは、「『楽しかった!』とにこにこで帰ってきました。」「スポーツが苦手な部分がありましたが、丁寧に、かつ、楽しく教えていただき感謝しています。」などの感想をもらいました。短い時間でしたが、子どもたちは、手本を見せてもらったり、基礎を教してもらったりして楽しい時間を過ごすことができました。多治見で競技スポーツに取り組んでおられる方々に直に接し、これまで以上にスポーツを身近に感じる事ができたのではないかと思います。

11月は、多治見ロータリークラブの方々に講師になっていただき、「多治見ふるさとしごと塾」を行いました。1時間目は「タイルアート」の下絵づくり、2時間目は、「しごと体験」、三時間目は、多治見市出身のシンガーソングライター佐藤梓さんのミニコンサートで、歌を聞いたりみんなで歌を作ったりしました。

2時間目の「しごと体験」には、建築士、鉄工所、弁護士、ケーキ職人などの他に、今年新たに陶芸家、水道屋、警備会社、電気工事屋、美容院、電力会社が加わりました。

参加者からは、「今日、ケーキの作り方を教えてもらって先生のお手本を見て、とてもすごいと思いました。ぼくもいつか先生たちみたいになりたいです。」「建設業の先生が自分の通っている学校を作ったという事を聞いて

とてもびっくりしました。将来は建築士になりたいのでとても勉強になりました。」などの感想が届いています。



この「多治見ふるさとしごと塾」は、ふるさと多治見で頑張っておられる方々にふれ、多治見への愛着を深められるように、希望をもち将来の夢を大きくえがけるようにと願い企画したものです。参加者からこうした感想が届き、大変嬉しく感じています。

また、9月も10月も11月も、中学生ボランティアを募集し、ボランティアの生徒に受付やグループの引率・片づけなどを頼みました。おかげで安心して円滑に講座を運営することができました。知らない人たちの中の勉強になるため、緊張しながらやってくる子にとっては、ボランティア中学生たちの優しい心配りが大きな助けとなりました。



今年度の募集も残り二講座となりました。今後も、講師の先生方をはじめ、各学校にもご協力をいただきながら進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

平成28年度
多治見市新規採用栄養教諭・養護教諭の紹介

栄養教諭・養護教諭として
歩み始めて



食から子どもの成長を願って
北栄小学校 渡邊紀子

日々、おいしく、安全・安心な給食が提供できるよう緊張感をもって給食管理を行っています。そんな毎日の中、子どもの様子を見られる距離で仕事ができる喜びを感じています。

北栄小学校では、「自分がステキって思える子になろう」を合言葉に、ほめて育てることを大切にしています。振り返ってみると、給食時間に訪問する中で、マナーの悪い子や小食・偏食が多い子などに目がいき、注意をすることが多くありました。この学校に赴任して、注意するばかりではなく、子どものステキな部分をみつけられるように心がけています。そのために、子どもと関われる給食時間を大切に、小さな成長でもみられた時は、ほめて認められるようにしています。

栄養教諭の仕事は子ども達の今の健康を支えるだけでなく、将来にわたる健康な食生活を支える上で重要な役割を担っていると感じています。これからも責任をもち、子ども達の将来を見据えほめて育てる指導ができるよう努力していきます。



児童の心と体を守る
養護教諭を目指して
滝呂小学校 加藤三保子

「児童の心と体を守る養護教諭になりたい。」その志をもって、憧れの養護教諭として働き始めて半年が経ちました。健康診断や来室者対応など、児童の心と体を守るためにはこんなにもたくさんの仕事、スキル、心遣いが必要なのだと改めて責任の重さを実感する日々です。

怪我や病気、保護者への対応については、管理職の先生方が的確な指示をくださるので、徐々に自信もついてきました。また、初任者指導の先生もとても丁寧に指導してくださるので、保護者や児童、先生方から信頼を得られる養護教諭となるためにすべきことが明確に見えるようになってきました。それはすべて先生方のお力添えがあつてのことだと感謝していますし、私がお力添えをきちんと自分のものにしていき、目指す養護教諭となることが恩返しだと思っています。

「児童の心と体を守る。」それがしっかりできる養護教諭を目指し、これからも児童の痛みに寄り添い、少しでも和らげられるよう、頑張りたいと思ひます。

いきいき遊び、脳活、スキルアップ学習をつないで

10月21日に、習慣向上学習指導研修会がありました。今回の研修は、幼稚園・保育園と小学校との接続、小学校と中学校の接続を充実させることに重点を置き、学習習慣の向上という柱から、園、小学校、中学校のつながりをつくることを考えました。小学校担当者は、養正幼稚園で年長クラスの「いきいき遊び」を参観し、中学校担当者は精華小学校の6年生の「脳活」を参観しました。活動の参観後、小学校1年生の導入期に「いきいき遊び」の教材を取り入れることや、中学校1年生において、「スキルアップ学習」に小学校の学習内容を取り入れることについて話し合いました。

小学校担当者会で話題になったことを紹介します。

- 小学校へ向けて準備をしていることを知り、小学校が丁寧に引継ぎをしていかなければならないと感じた。
- 園で使っている教材を工夫していけば小学校でも使っていけると感じた。
- 複数の園から就学するため、経験している子とそうでない子の差が生じる。
- 1年生担当者が誰になるか分からない。校内での引継ぎの仕方を工夫しなければならない。(○はよさ、●は課題)

就学前の園での「いきいき遊び」の取組状況を知ることから始まりであることを確認しました。入学してくる子どもたちの経験を知り、子どもたちの中にある経験を生かすこと、経験には差はあるけれど、子どもたちがもっている経験を広げていくことを進めていきたいと考えます。

校内の引継ぎについては、「脳活」についての校内研修がカギになると思います。年度初めに「脳活」のねらいと、「いきいき遊び」「脳活」を通して子どもたちの成長をつなぐことを共通理解して進めていくとよいと思います。

次に、中学校担当者会で話題になったことを紹介します。中学校1年生の4～5月に実施できるとよい内容を検討しました。

- 中学校1年生4～5月に実施できるとよいスキルアップ学習の内容
- (国語科) 漢字の読み、ことわざ、四字熟語等
- (数学科) 四則計算
- (理科) 実験器具の名称、既習事項
- (社会科) 国旗と国名、地図と国名
年号と出来事、写真と人名
- (英語科) 日常生活の動作の英語表現

スピード・リズム・タイミングを大切にしながら、これまでに学習した内容(上記にある内容)を復習することで、中1のスタートからすぐに、継続して学習姿勢と基礎学力の定着を図ることができると考えます。

意見交流の中で、スキルアップの時間の保障について話題になりました。現在、朝の帯の時間で全校一斉に実施をしている学校と、教科の時間の中で実施している学校があります。

小学校、中学校ともに、「脳活」「スキルアップ学習」の時間をつくり出し、取組を進めています。各園では、「いきいき遊び」を通して、子どもたちを褒め、楽しさの中で、学びに向かう姿勢を養う努力を続けています。

こうした各ライフステージでの子どもたちの学びと、先生方の努力を「接続」させていきたいと考えます。

後ろ姿ですが、年長の子どもたちの視線が、カードに集まっていることが分かります。



6年生の「脳活」の様子です。集中しています。

「たじみ子ども権利の日」の実践から

毎年11月20日を「たじみ子どもの権利の日」としてその付近日に授業実践等啓発活動をお願いしています。

この授業実践については、平成19年度課題別検討委員会「子どもの権利に関する条例」推進委員会から指導案・学習プリント等が提案され、それに基づいた実践が積み重ねられています。

今年度も、子どもたちが、安心して、自分らしく、生き生きと生活できるように、各校で「たじみ子どもの権利の日」に関する取組を行いました。

各学校から提出していただいた実施アンケートと児童生徒の学習の足跡をもとに、平成28年の実践を紹介します。

人権教育主任の先生を中心に進めてくださった各校の取組の様子は、次の通りです。

[各校の取組の様子]

- ・全クラスが道徳、特別活動の授業を行った。
- ・全校集会や全校放送等で、「あったかい言葉かけ」について紹介した。
- ・朝の会や帰りの会で紹介した。

また、参観日に、「たじみ子どもの権利の日」に係る授業を行うことで、保護者にも「たじみ子どもの権利」の啓発を進めている学校もありました。

学習で取り扱った内容としては、次に示すものがありました。

[学習で取り扱った内容]

- ・子ども権利の日に係る指導資料、指導案を活用した。
- ・人権に係る道徳の資料を使用した。
- ・行事と係らせて、男女分け隔てなく、誰とでも楽しもうとする意識をもたせた。
- ・「多治見市子どもの権利」に関する条例について考える時間とし、自分や自分の周りの人との関係を見つめさせ、考えを書くことがで

きるように学習プリントを工夫して授業を進めた。

- ・特別支援学級では、日常生活の中におけるトラブルを考えることを通して、お互いに優しい心で接することの大切さについて触れた。発達段階に応じて、児童生徒の実態に応じて、たのしく暮らす、じぶんを大切にする、みんなと仲良くする心と態度を育てる取組を進めていました。

この取組の中で、児童生徒が次のような感想を残しました。

今日の勉強では、自分を大切にすることによって友達を大切にできることがあるので、これからは守っていきたいです。また、たじみ子ども権利の日は、1日しかないけれども、毎日もっていかないと学校、家族がよくなるないので、毎日㊦㊧㊨をまもりたいです。
(小学生)

子ども権利の日は、子ども一人一人が、自分らしく生き、安心して住める町にするためにあることが分かりました。未来の大人である私たちのために、この日がつくられたのだと思います。よりよい町にするために、周りの人に優しくしたいです。
(中学生)

自分に合った学びの場を選ぶことができることが安心して生活していることにつながっているという生徒の声もありました。

先生方からの意見も抜粋して紹介します。

- ・仲間や自分を大切にするためにすべきことを考えることができた。
- ・言語環境の乱れが気になる。家庭、地域も巻き込み、豊かで温かみのある言語環境の中で生活できるようにしなければいけない。
これからも、人権感覚を研ぎ澄ませ、互いに安心して自分らしく生きられるような環境を整えていきたいものです。